

サウンドスケープを用いた繁華街での客引きの浄化

- 木屋町通における共鳴アプローチの可能性 -

同志社大学野田ゼミ B 班

○辻山耀太 (Yota TSUJIYAMA) • 山本美空莉 (Mikuri YAMAMOTO) •
小林渡 (Wataru KOBAYASHI) • 勇奏太 (Kanata ISAMI) • 大石陽菜 (Hina OISHI) •
島西夏穂 (Kaho SHIMANISHI) • 相馬佳歩 (Kaho SOMA) • 光井ひなた (Hinata MITSUI) •
文暎赫 (JunHyeok MOON) • 渡邊とわ (Towa WATANABE)
(同志社大学政策学部政策学科)

キーワード：サウンドスケープ、音楽演出の効果、治安対策

1. はじめに

木屋町通を含む京都市中京区のまちの理念は、住民と来訪者の「誰もが安心安全に、笑顔で暮らし、観光できる、やさしさあふれるおもてなしのまち」であり、「世界一安心安全・おもてなしのまち」を推進している。この理念に向けて、木屋町通の客引き行為の禁止条例制定、地域自治組織と中京警察署の連携による防犯パトロール、一斉清掃、ライトアップ等を進めている。しかし、7月下旬に京都市在住・通勤通学者 155 名に木屋町通の治安についてプレ調査を行ったところ、全国平均と比べ「とても悪い」「やや悪い」とする回答は全体の 8 割で、京都市で最も治安が悪い場所を「木屋町通」とする者は 7 割を占め、その理由として「醉客」「客引き」が 4 割を超えた。続いて、木屋町通のイメージについて街頭調査（8 月下旬、烏丸御池及び四条河原町付近、326 名）で詳細に把握したところ割合が高い順に「客引き」「醉客」「若者のたむろ」といった迷惑行為を木屋町通の印象として挙げ、6 割が「通りづらい」とし、まちの理念である安心安全からは程遠い結果となった。

本研究では、サウンドスケープ（以下「SS」）を用いた環境演出による客引き行為の抑制効果の検証を目的とする。SS はランドスケープ（風景）とサウンド（音）を組み合わせた「音の風景」を意味し、音による環境演出である（鳥越 1990）。音楽による誘導は言語的手法より効果が強い（Albersnagel 1988； 谷口 1991）。客引き抑制に寄与し、環境との共鳴で実施可能な治安対策として SS を用いた音楽の効果を検証する。

2. SS に関する先行事例研究

はじめに、客引き禁止条例を定める 21 都市に客引き行為対策を調査した。中には子どもの声で啓発を行うといった対策（所沢市防犯交通安全課防犯対策室インタビューによる）はあったものの、音楽を用いた環境演出（以下「音楽演出」）は実施されていなかった。

音楽演出に関する先行研究として、クラシック音楽（以下「クラ音」）の街頭放送が軽犯罪の抑制

や公共空間における迷惑行為の抑制効果を示したものがある。ロンドン交通局が地下鉄でクラ音を一定期間流した結果、強盗は 33%、暴行が 25%、破壊行為が 37% 減少した（Police News HP）。クラ音は落ち着いた雰囲気を人に与えるのである。音声による啓発やモスキート音の若者たむろ防止はその環境との調和は考慮されないが、SS は歩行者に穏やかに作用し治安改善を図る。しかし、木屋町通のような歴史的、文化的背景の濃い地域では、クラ音だけが景観や地域の文脈と親和的であるとは限らない。

本研究は音楽演出の治安対策の効果を検証するが、クラ音だけでなく和楽器音楽（以下「和音」）の効果も検証する。和音は木屋町通の持つ伝統的な都市景観と親和性が高く、空間の印象を変容させることが可能と考える。先の街頭調査で回答者の 76% が「和音は木屋町通の特性を損なわずむしろ雰囲気の向上に寄与し得る」としており、和音の環境との共鳴可能性は十分に想定できる。

3. 客引き抑制に向けた音楽演出の実証実験

3.1 実証実験の方法

木屋町通の南車屋橋から山崎橋までの区間で、街路樹にスピーカー（以下「SP」）を設置し音楽を流す実証実験を行った。4 地点を観測地点とし 18 時から 22 時までに 1 時間あたりの通行人数、キャッチ（客引きを行う人）数、客引き行為発生数、客引き被害者数を 9 月 1 日から 3 週間把握した。実施期間中、1 週目は音楽なし、2 週目は和音、3 週目はクラ音を流し相違を分析した（天気、観測地等の条件を一致）。なお、和音はユーキヒロセの楽曲、クラ音はハイドンの楽曲を利用した。

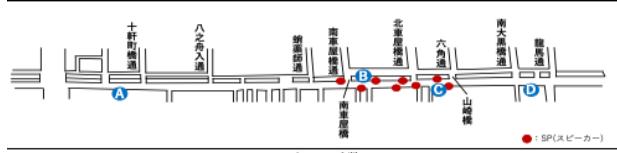
本実験は、京都市文化市民局文化市民部くらし安全推進課、建設局みどり政策推進室、建設局土木管理部西部土木みどり事務所、中京区役所地域力推進室、木屋町共栄会、立誠自治連合会、中之町町内会、中京警察署の協力を得て実施した。

3.2 実証実験の結果

和音やクラ音を流した場合、音楽なしに比べ SP

付近でキャッチ数、客引き行為発生数、客引き被害者数が減少した。回帰分析でみると和音の抑制効果は高く、表1の地点Bでは、1時間あたりでみて、キャッチ数は-1.7人、客引き行為発生数は-87回、客引き被害者数は-179人となった。こうした効果はSPから離れた場所では有意に増加しているため、SP近くで減少したキャッチが移動した可能性がある。しかし、全体として音楽の演出効果は明確である。

表1 音楽演出に関する回帰分析



キャッチ数				
	SPから離れた場所	SPから近い場所	SPから近い場所	SPから少し離れた場所
	A	B	C	D
和楽器音楽	0.1	-1.7 ***	-2.4 ***	-1.6 ***
クラシック音楽	-0.8	-1.5 ***	-1.9 ***	-1.4 ***
土日	-1.1 **	0.0	0.1	-0.3
21:30以降	1.7 ***	0.7 **	1.4 **	1.3 **
定数	5.1 ***	3.6 ***	4.6 ***	4.4 ***
決定係数	0.21	0.33	0.32	0.23
客引き行為発生数				
	A	B	C	D
	A	B	C	D
和楽器音楽	40.9 **	-86.8 ***	-34.1 ***	-23.1 **
クラシック音楽	28.1 **	-72.4 ***	-30.6 ***	-21.4 **
土日	-59.1 ***	12.1	7.5	-12.1 **
21:30以降	14.3	27.8 **	12.1 **	-1.5
定数	93.0 ***	111.5 ***	59.3 ***	77.5 ***
決定係数	0.25	0.50	0.35	0.14
客引き被害者数				
	A	B	C	D
	A	B	C	D
和楽器音楽	83.3 **	-178.9 ***	-86.4 ***	-56.1 ***
クラシック音楽	44.5 *	-136.9 ***	-74.4 ***	-58.3 ***
土日	-110.4 ***	27.4	33.1 **	-11.8
21:30以降	32.7	53.0 **	41.1 ***	20.9
定数	211.4 ***	227.7 ***	147.0 ***	168.3 ***
決定係数	0.24	0.44	0.38	0.19

(注) 標本 84, OLS(ロバスト標準誤差), ***:1%, **:5%, *:10%.

実証実験の期間中に木屋町通の通行人 481 名にアンケートを行った。各治安対策の平均値は図1のとおりで、音楽演出は違法駐車対策や防犯パトロールなど直接的な効果を狙う方策より低いが、平均が 5.07 であり 3 番目に高い。

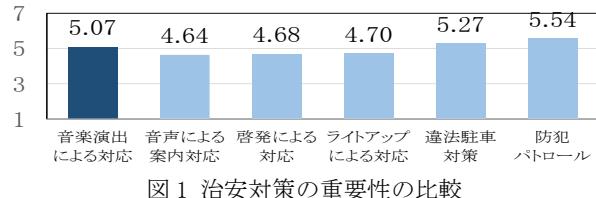


図1 治安対策の重要性の比較

表2のとおり、音楽演出の重要性に対して、音楽の演出効果は和音とクラ音とともに有意であり、尺度が同じこれらの変数のうち特に和音の係数が高い。音楽演出の継続意向に対しても和音のポジティブな効果が得られる。表2のモデル2の結果から、大学生や会社員は音楽演出の重要性を指摘する。街頭調査(8月下旬、烏丸御池及び四条河原町付近、326名)よりこれらの層は木屋町通を比較的頻繁に訪れているが、そうした人たちほど治安への意識が高く、音楽演出の効果を重視しているといえる。

また、木屋町通に安心感や京都らしさを感じる人ほど、音楽演出を重要と捉えていることがわかった。安心感は音楽演出の継続意向にも正の効果がある。さらに、女性においても音楽演出の継続意向が強い結果となった。

以上より、木屋町通では音楽演出の効果があることがわかる。そして、和音の効果は特に高い。

	音楽	音楽演出の重要性モデル1		音楽演出継続意向
		重要性モデル1	重要性モデル2	
和楽器音楽		0.407*** (0.151)	1.629*** (0.218)	0.290* (0.154)
クラシック音楽			1.152*** (0.213)	
認識	音楽演出認識	0.580*** (0.169)		0.547*** (0.166)
属性	女性	0.213 (0.139)	0.155 (0.143)	0.313*** (0.133)
	年齢	0.009 (0.079)	0.067 (0.075)	-0.118 (0.072)
	大学生	0.130 (0.231)	0.658*** (0.225)	0.071 (0.233)
	会社員	0.034 (0.258)	0.653*** (0.237)	0.368 (0.252)
	京都市民	0.112 (0.158)	0.189 (0.157)	0.036 (0.145)
	安心感	0.135** (0.06)	0.129** (0.056)	0.182*** (0.056)
	京都らしさ	0.206*** (0.072)	0.159** (0.066)	0.099 (0.064)
木屋町通の環境	通りやすい	0.029 (0.078)	0.020 (0.071)	-0.128* (0.071)
	ストレス	0.058 (0.061)	0.031 (0.066)	0.024 (0.056)
	客引き不快	0.056 (0.058)	0.098* (0.057)	0.034 (0.053)
	再訪意図	0.050* (0.079)	-0.071 (0.076)	0.137* (0.072)
	定数	2.111*** (0.654)	1.614** (0.654)	3.604*** (0.559)
決定係数		0.2396	0.252	0.199
標本数		332	459	336

表2 音楽の種類と音楽演出の重要性の関係

(注) OLS(ロバスト標準誤差), ***:1%, **:5%, *:10%.

4. 結論と今後の課題

京都らしさを想起する和音を流すことは、木屋町通に安心感をもたらす政策として有効性がある。また、まちと調和し、木屋町通の歴史を生かしたSSによる景観づくりに調和する意味で共鳴する。一方で、既存政策は取締りといった抑止的手法であり、景観や雰囲気には共鳴しない。

ただし、今回の実証実験は3週間という短期的な実験であり、正式に政策として実施するには長期的な実験を行い、効果を明らかにしていく必要がある。また、音楽の内容によっても効果は異なる。今後は、自治会での協議でSSを用いた音楽演出を提案し、地域の合意形成を経て実現に向けた検討を進めていく予定である。自治会からは本政策に対して一定の関心と理解が示されているため、実施に前向きな議論が期待される。

[参考文献] 鳥越けい子 (1990)「サウンドスケープとはなにか」『環境技術』19巻7号 pp. 409-411
谷口高士 (1991)「言語課題遂行時の聴取音楽による気分一致効果について」『心理学研究』62巻2号 pp. 88-95
Albersnagel, F. A. (1988) "Velten and musical mood induction procedures." *Behavioral Research and Therapy* 26 (1) :79-96.
IndependentHP. <https://www.independent.co.uk/arts-entertainment/music/features/mind-the-bach-classical-music-on-the-underground-800483.html> (2025年9月29日閲覧)
Police News (<https://www.police1.com/news>) (2025年10月18日閲覧)